

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年8月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870103862
事業所名	すみれの里
(ユニット名)	かりんと
記入者(管理者)	
氏名	花山朋美
自己評価作成日	令和元年 6 月 30 日

<p>【事業所理念】                  当たり前の生活を基礎として生活のしにくさや生きにくさに対して笑顔と思いをやりを持って支援を行い穏やかで安心して生活できる様にお手伝いする</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】                  1) 介護記録の意義を理解し利用者のより良い生活やスタッフの意見交換に役立つ様にする                  介護記録の意義を職員全員理解したとは思えない所がある                  記録に日々の記載等が少ない                  2) 緊急時の安全な避難について                  避難経路を入口に大きく貼り出した                  利用者と一緒に歩いてみた                  3) 日常的な外出や近場でもお出かけが出来る様に職員は努めているが家族から十分な協力が得られて無いのが現状                  外出の企画をたてて家族に伝えたが参加は難しい                  家族も参加したいと思う企画も必要</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】                  事業所は交通量の多い郊外にあり、周辺には民家が少ないため日常的な地域交流は困難であるが、町内会に入り清掃等地域行事にも参加するなど、地域との交流を深めようとする姿勢が伺える。常勤看護師の配置や協力医とも24時間医療連携を取り、看取りにも積極的に取り組んでおり、利用者一人ひとりが安心した生活が送れるよう努めている。職員は人間関係も良好で利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、介護サービスの質のさらなる向上を目指している。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族	地域	外部	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
						評価	評価	評価	
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	生活歴を家族から聴き状態や表情会話から意向の把握に努めている	◎	/	○	日々の生活の中で言葉や表情から、利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	以前の暮らしぶり生活歴等から本人本位に考慮して職員間で話し合うようにしている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時はもちろん面会時・面会が少ない人は電話でもお聞きしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人ファイルとして手に取りやすい所に置いている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人に聞き話しにくい場合は他の職員が対応する	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に本人、家族ケアマネ等からの生活歴や環境、サービス利用の経過等を把握するように努めている	/	/	○	入居時、これまでの暮らしやサービスの利用状況などについて、利用者や家族、介護支援専門員等関係者や関係機関等から情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	個々の心身の状態や生活のリズムを持続し小さな変化にも注意し情報共有している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の状態を把握し介護記録に書き遺す様になっている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の関わりから記録を残し職員間で情報を共有する	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個々の生活リズムを把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	最初は本人に聞いたり家族から聞いているがそれでも分からない場合は日々の寄り添いの中で見つけている	/	/	○	利用者や家族等関係者からの情報をもとに日々関わりながら、ユニット会議等で話し合い、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	職員間で話し合い出来る事出来ない事見極めている 記録等も参考にしている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	会議等で話し合っている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向や暮らし方は職員間で話し合い出来る限り反映された介護計画となっている	/	/	/	利用者や家族の意向をもとにユニット会議で話し合い、意見やアイデアを介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	特に利用者、家族と相談しながら意見やアイデアを出し合っている	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度の利用者に対しては主に家族の意見を重視してその人らしい生活が送れる内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	主な支え手としては家族が主となっているが地域の人たちの力も借りる努力をしている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を誰でも見れる所に置き職員間で共有出来る様にしている	/	/	○	利用者個々の介護計画はケアチェック表に挟んでおり、職員は内容を理解・共有している。ケアチェック表には、ケアの実践状況を○×等記号で記録しており、ユニット会議やショートミーティングで状況を共有して日々の支援につなげている。介護記録には、利用者の日々の様子や支援の具体的な内容が個別に記録されており、職員の気づきやアイデアなどは、介護記録のほか申し送りノートで情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ユニット会議で確認し話し合って日々の支援に繋げている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に書く様にしている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護経過記録に何気なく書いている事が気づきやアイデアとなっている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ユニット会議で行っている	/	/	/	介護計画の見直しは3か月に1回ユニット会議で話し合っているが、新たな課題や具体的支援内容についてのみで、利用者や家族の意向、総合的な支援内容についての検討が不足しているため見直しを期待したい。 ○ 新たな要望や変化のない利用者に関しても、毎月のユニット会議で状況確認している。利用者の状況に変化があった場合は、随時家族や医師等関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。家族や医師、職員の意見は申し送りノートに記載しているが、担当者会議録がないため作成することが望ましい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ユニット会議で話し合っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	退院時 利用者に変化があった場合は新たに介護計画を作成している 退院時のカンファレンスに参加して各専門職の意見を参考に作成している	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	休憩等を利用して話し合っている	/	/	○	毎月ユニット会議で利用者の状態を話し合うほか、緊急案件がある場合には、その都度ショートミーティングを開催して話し合っている。参加できなかった職員を含め、ユニット会議録等で確認・共有するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎回司会を交代したり意見の出ない職員には問いかけたりして積極的な意見が出る様にしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日はユニット長が決めているが職員の都合も聞いている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の記録を見やすい所に置いたりユニット長が観る様に促している 他の職員のノートを見せてもらっている職員もいる	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し、情報共有を行っている。閲覧したらサインをする様にもしている	/	/	◎	申し送りノートを活用して情報伝達するようにしており、確認後にサインして確実に共有するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートへの記入はもちろん、大切な情報は個人記録のファイルにメモ紙を貼ったり、色ペンを使用したりして、特記事項が分かりやすいようにしている。業務連絡については申し送りノートやカレンダーを使用している	/	○	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の行動や訴えがある場合は出来る限り叶える様にしている	/	/	/	日常の衣服を選ぶことや、おやつや飲み物の選択など自己決定する機会を設けている。利用者の好みのお菓子を食べながら、興味のある話題を提供して話を聞き、昔話や軍歌を歌うなどなつかしく、楽しい雰囲気づくりに努めている。利用者はマスコットの存在の飼いい猫とのふれあいを楽しみにしており、いきいきとした表情で毎日ふれあっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	本人の思いを表に出しやすい雰囲気作りに努め困難な場合は助言をして自己決定出来る様に支援している	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者との信頼関係を築く様にしている又個々の分かる力に応じて支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個々の気分や体調等に配慮しながら生活のペースを乱したり押し付けられない様心掛けている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員は優しく笑顔で接し楽しい雰囲気づくりが出来る様気を配っている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情の変化しづさ等見逃さず本人の意向に沿って対応を心掛けている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者を尊敬してほこりやプライバシーに干渉した声掛け等を行っている 接遇の研修も積極的にしている	○	○	○	人権や尊厳については接遇研修で学んでおり、誇りやプライバシーに配慮した声かけを常に意識して利用者へ接している。トイレ誘導などは耳元で声をかけるなど、さりげなく介助するように心がけている。居室の出入りの際は、必ずノックや声かけをして利用者の承諾を得るようにしているが、不在時に利用者の許可を得ていないこともあるため、常に意識して行動するよう努めることが望まれる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	他の利用者の前での声掛けには特に気を配っている トイレの声掛けには耳元でささやいたりしている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時にはバスタオル等を使用してプライバシーを尊重して介助している トイレ使用時には職員も立ち入りを遠慮している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時にはノックして返事を確認してから扉を開ける様にしている 不在時でも許可を頂いてから入っている	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入居時に個人情報同意書にサイン頂いている 同意の無い物に関しては使用しない 外部からの問い合わせには家族の許可がある物だけは応じているがその他は一切応じてない 職員も周知している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事等で忙しい時には手伝ってもらっている他利用者の我慢強さとか巧みな言葉使い 所作等は観ていて参考になる事が沢山ある	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握し、配席の検討や静かな環境で過ごす時間を作るなど利用者が孤立せず穏やかに過ごせるよう工夫したり、不穏な雰囲気になりそうな時は、職員が仲介してトラブルにならないよう支援したりしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が話し相手になったりしている 他の利用者がある事で安心すると言う方もいる	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士のトラブルを避けるために席替えしたり仲良くなったもらいたいのので外出を増やしたりしている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が利用者同士の意見をしっかり聞く トラブルになった場合でも間に入り落ち着いて頂く様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時にかぞより時間をかけて情報収集している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者から得られる場合はしっかり聞き取っている 答える事が出来ない利用者には家族から情報収集している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	利用者の希望がある場合は叶える様にしている 会える事が出来なくても電話や手紙という手段もある				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時間を長くして気軽に面会出来る様にしている 面会時にはお茶等必要な物は提供している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者の希望があれば叶える様に 車に乗れない方には駐車場でお茶したり玄関まで出て外気浴して頂いて 歩行訓練の場としてホーム周囲歩いたりしている	○	○	○	家族の協力を得て外出に出かけたり、少人数ずつで焼肉店やケーキ屋さんに出かけたり、買い物に行ったりするなど、できる限り利用者の希望に沿って外出できるようにしている。重度の利用者を含め、近所に散歩に出かけ、玄関先に出て花を見ながら外気浴をするなど季節感を肌で感じてもらえるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	運営推進会議等で協力を呼び掛けている				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	利用者の体調観ながら近くに出外したり 重度の方は玄関で花などを観ている			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者はあまり希望がないがいつも行っている場所ではない所に行こうと計画している				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修を定期的に行っていて職員は理解出来ている個々の利用者の状態の変化を見のがさない様にしている				毎日の着替えや入浴での洗身など、職員は利用者のできることを見極め、できることは極力手や口を出さず、じっくりと見守るなどゆったりとした姿勢で支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者の身体機能に合わせたケアをしている維持向上が図れるように日常生活上のリハビリに取り組んでいる				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	壁紙づくり 工作等は間違っても否定はせずに見守り一緒に作成している	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所前の生活歴利用者の日々の行動 話の中から楽しみや役割出番になるのか把握している				洗濯物たたみやお盆ふき、花の水やりや裁縫など利用者一人ひとりに合った役割や出番、楽しみごとを把握し、それぞれ得意分野で力を発揮してもらい、喜びや張りのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お盆拭き 花の水やり 役割を持つことで張りのある生活が出来る様にしている 外出は希望がある場合は叶えている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	利用者が地域の中でどんな役割 楽しみが持てる様になるか検討している				

愛媛県グループホームすみの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者個々の身だしなみやおしゃれについて把握しようと努めている				整容の乱れや衣服の汚れがある時は、他の利用者等に気づかれないよう居室に誘導して着替えてもらうなど、さりげない支援に努めている。重度の利用者を含め、好みの衣服を着てもらうなどその人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型は少しでも自分の思いを伝えられるなら必ず添える様にしている 洋服は一緒に買い物に行き好きな服を選んでもらっている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族の意向を聞いたり入所前の生活状況を伺い本人の意向に添える様にしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	祭りや外出等の時は本人に選んでもらっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけがなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	服が汚れている場合には速やかに更衣している 食べこぼし等は黙って片付けている 髪型離床後にブラシを入れる	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族に散髪をお願いしたり利用者本人に確認してカットしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	寝たきりの方でも明るい色の服を選ぶようにしている 家族も望んでいる			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事はとても大切な事と職員は理解している 献立と一緒に考えている				利用者には献立の希望を聞いており、食材はネットスーパーで注文している。ホットプレートでの簡単な調理を職員と一緒にいたり、お盆ふき、テーブル拭きなどできることを手伝ってもらったりしている。献立づくりの際には苦手なものやアレルギーを考慮し、季節感のある旬の食材を提供するようにしている。茶碗や湯飲み、箸等は自宅から使い慣れたものを持参してもらい使用している。職員も利用者と同じテーブルを囲んで一緒に食事しながら見守りや介助を行っており、利用者と職員が会話しながら楽しそうに食事していた。重度の利用者を含め、献立の説明をし、調理の匂いを感じてもらうなど、食事を待ち遠しく感じてもらうよう配慮している。栄養士が不在のためアドバイスは受けていないが、献立の栄養バランスや調理方法については、職員間で定期的に話し合い偏りのないようになっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	現在は調理できる利用者が居ないので台拭き・お盆拭き・献立の相談にのってもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者の能力に応じて出来る事は手伝ってもらっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギー等のある利用者はいない 利用者の嗜好については職員同士で共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節を感じさせてくれる食べ物は積極的に献立に取り入れる様にしている 土用の丑の日のうなぎ 豆ごはん トウモロコシ等			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	皿や茶碗は陶器を使用してミキサー食にも盛り付けの工夫をしている 下痢の方にはお粥を提供したりしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時に使用していた茶碗やお箸等を持参してもらっている			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事介助中にさりげなく利用者の摂取状況を確認している 手で食べられる利用者には箸を渡したり食べこぼしは食後に片付ける否定はしない様に声掛けしている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	台所が近いので料理を作っている時の臭いも廊下に出れば嗅ぐことが出来る 食事の内容も必ず伝える様にしている ミキサー食でも彩を考えている	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	糖尿病の体重増加気味の方にはカロリーを考慮量を減らしたり 便秘傾向の方には水分摂取を増やしたりしている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事摂取量が少ない人にはお茶だけではなくジュースや口当たりの良いプリンやアイスクリーム等も摂取してもらっている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士はいないが献立に片寄りが無いか職員で相談している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板の消毒肉や魚を調理する時は包丁を別にしたり調理する順番を考えたりしている 調理前には手洗いをしている エンボスの手袋の使用している				

愛媛県グループホームすみの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	週一回程度歯科衛生士による口腔ケアに来てもらっているその都度アドバイスを受けていてケアの重要性は理解出来ている				週に1回、歯科衛生士による口腔ケアと指導を受けており、利用者一人ひとりの口腔内の健康状態について把握できている。毎食後利用者個々の口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保持できるよう支援している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	把握できている			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	ケアについて分からない事があればいつでも相談出来る体質になっているので日常の支援に活かされている					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者のケアを傍で見守り出来ない事は手伝っている					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者のケアは声掛けして出来てない時は手伝っているこの時に口腔内のチェックもしている			○		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	協力医療機関に相談できる体制が整っているし緊急の場合は歯科受診している					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解しているオムツを使用する場合は段階を踏んだり何度も家族も含めて相談している				トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄のサインを見逃さないように誘導するなどして支援している。おむつやパッド等排泄用品の使用は、必要性や適正性を検討し、状況に応じた支援を行っている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘すると落ち着きが無くなって不穏につながったり 腸に悪影響をもたらす事も理解出来ている					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄表や介護記録を利用して排泄パターンを把握できる様に努めている					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排尿パターンを掴んでトイレ誘導などしてオムツ等に頼らない様にしている オムツを使用するに当たっては職員間で何回も話し合っている			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄を困難にする様な病気等はないか診察してもらったり トイレが遠い所にあり間に合わないのでは無いか他検討している					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄の失敗を防ぐ為に早目の声替え等を行っている					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族と職員が利用者の現状等詳しく相談してオムツの種類など決めている					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	布パンツは座っている時 紙パンツは夜間もしくはベッドで休んで居る時と使い分けしている					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	入浴して腹部を温めたり食事にヨーグルトや牛乳を摂取している					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の希望には出来るだけ添える様にしている 少し熱めのお風呂に入りたいと言う希望がある場合は家族の了解のもとに行っている			◎	○	週2~3回入浴しているが、要望があれば臨機応変に対応している。浴室を温めて寒くないように配慮し、入浴を嫌がる場合には、時間や曜日を変更して声かけするなど工夫している。重度の利用者も特殊浴槽で入浴できるようにしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	湯船に入っている時は少し離れた所で見守ってゆっくりして頂いている 入浴中は職員の出入りを遠慮している					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事はして頂き出来ないことのみ手伝っている					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む方には時間をずらしたり職員を交代しているがそれでも拒否される方は日をずらしている					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日バイタル測定しているので血圧が高かったり微熱がある利用者には入浴は中止している					

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握できている 記録にもしっかり書かれている	/	/	/	昼夜逆転の利用者もいるがその状態を理解し、日中休みたい時には無理に起こさずベッドで休んでもらい、眠れない時は職員が利用者と温かい飲み物を飲みながら話すなど工夫しており、安易に薬剤に頼らないよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間外出してり日中休み時間減らしたり出来る事はしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠剤服用している利用者は少ない 眠剤を増やすのではなく減らす方向方向性を探りたい	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼食後はベッドで休み時間を取っている ベッドで休まなくてもリビングのソファで休んでいる	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	手紙を書いたり電話をしたりしている 電話は21時迄と決めている 家族には毎日電話しても良いという許可を得ている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状は必ず本人に書きませんかという言葉をかけている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の許可を得て殆ど毎日電話している利用者もいる	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙には返信するか電話している かけない場合は代筆も検討している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかけたらかかってくるようにしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	女性にとってはお財布を所持する大切さは理解している 男性の利用者も自分でお金を持って好きな物を買いたいという希望があります。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	買い物に行きたいという希望があれば叶える様にしている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近くのお店の方には説明して理解して頂いてる	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	自分のお金で孫のプレゼントを購入したいという希望があり自然の家用のバックを個入した	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	おやつや身の回りの品など購入する際は利用者・家族に相談している	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納帳は毎月家族に領収書と共に郵送している 金銭の管理については契約書に定めている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	果物等が食べたいと言う要求があれば利用者と一緒に買い物にしている 個々のニーズに対応出来るだけ出来る様に個別の外出にて対応している	◎	/	◎	自宅までのドライブや買い物等、要望があれば応じて柔軟に対応している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には親しみやすい花や夏には野菜等を植え利用者と玄関先に出て花の手入れをしている	○	○	○	玄関アプローチには季節の花や野菜のプランターを置くなど、親しみやすく気軽に入りやすい雰囲気づくりに努めている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	壁には季節感を表す様な壁画を利用者と一緒で作成して貼っている リビングは家庭に有る様なものを手の届く所に置き利用者が手を延ばせば取れるようになっている	○	○	○	廊下の壁には、いちご狩りや外食時の写真が掲示されており、利用者が楽しい時間を過ごしている様子がよくわかり、家庭的な雰囲気が感じられる。毎日の掃除が行き届き、清潔感があり、不快な音や光、臭いなども感じないよう配慮している。リビングにはひまわりが生けられ、壁には利用者と一緒で作成した七夕飾りやうちわが飾り付けられており、季節感を味わうことができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の掃除は欠かさず汚れが目立つ所はその都度綺麗にしている 出来るだけ大きな物音を立てない様になっている	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感が分かる様な壁紙をはり安定感のあるソファを置いて心地良い空間作りをしている	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファを置き気軽に会話できる様にしている ユニット自体あまり広くなく居室に居ても話声・調理する音が聞こえる	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンとドアで見えない様にしている トイレや脱衣所使用時は必ずドアを開けて使用している	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に出来るだけ新しい物は買わず使い慣れた物を持参して頂く様にお願いしている こたつやテーブル等も使用している	◎	/	/	居室には、電動ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられているが、寝具やテーブルやソファ、ぬいぐるみなどは個人のもを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自室がわからない利用者には目印をつけたり触ってはいけない物は手の届かない場所に置いたりして自由に行動出来る様にしている	/	/	/	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	持ち物には必ず記名をして居室の椅子等の配置は出来るだけ変えない様にしている	/	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	馴染みの物は手の届く範囲に置いている 利用者が使用する時は一緒にしている 利用者が使用を申し出た場合は断る事をしない様にしている	/	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	出入口の鍵は夜間しかかかっておらず又鍵をかける事の弊害もきちんと理解している 研修等で話し合っている	◎	◎	◎	職員全員が玄関等に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関等出入口は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	拘束を望む家族に対しては利用者が受ける影響についても説明して理解してもらった居る	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ホームの出入口付近には必ず職員がいる様にしてどこかに行く場合には職員間で声掛けしている	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントやかかりつけ医の情報提供表等を参考にして把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	介護記録に記載して口頭でも申し送りしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護職員が常時いる様な体制になっている 協力医療機関の看護師達とも長年の交流がありいつでも相談出来る様になっている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者と家族の意向に沿った病院を受診している かかりつけ医に家族と受診している利用者さんもいる		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居以前からのかかりつけ医を入居後も利用している利用者様もいる 家族と利用者の希望を優先させている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診前には必ず許可を得て受診後は必ず報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーと合わせて情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時にカンファレンスの参加を家族に同意を頂き必ず参加させて頂いてる				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	救急以外の病院はいつも決まった病院なので顔見知りの相談員さんが居たり職員がいる				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日々の生活の中で気付きは看護職に相談して看護職から協力医療機関の担当看護師に相談出来る				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間のオンコール体制が出来ている 電話をかければ必ず看護師又は医師が対応して下さっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	介護職は体調の変化に気付けば看護職に夜間でも電話で連絡出来る様な体制を取っている 介護職は体調の変化を良く見ている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	新規に処方された薬は薬剤師からアドバイスを受けている 薬情等も分かるところに置いていて職員全員が見れる様になっている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬は朝夕夜と色分けされており服用前に本人の前で名前と何時の薬かを読み上げて服用して頂いている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の副作用や調整については医師と相談しながら利用者の体調をみながら服用して頂いている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	体調の変化や経過は介護記録に記載している 往診時それを参考に情報提供している				

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に終末期の有り方について話し合っている 最後はどこで迎えるか等聞ける範囲で伺っている	/	/	/	重度化や終末期等のあり方は、利用者や家族の意向に沿い職員やかかりつけ医、協力医療機関等関係者で話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合は協力医療機関・家族・職員で話し合っている	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応については職員間で話し合い個々の思いや力量等を確認している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族には出来る事・出来ない事を話しているが理解を得られない事があるのでわかりやすく説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族の思いはその都度変わる時もあるので話し合いながらチームで支援出来る様に体勢を整えて行きたいまた終末期の研修などをして今後に備えていきたい	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族とは話し合いを重ね不安を解消出来る様にする	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	院内研修で定期的に行っている 医師会のメルマガ等で流行している疾患などの情報をいち早く収集して対策を取っている 予防接種は全員摂取している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	院内研修時に実際嘔吐物処理方法などの訓練をおこなっている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	医師会のメルマガ・テレビ・ネットから情報収集している 介護保険課からもメールが来るようになっている 運営推進会議でも感染症の情報がはいる	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	運営推進会議にて地域包括の方から情報頂いている テレビ・ネットで収集している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関に張り紙をして面会の方には手洗いとマスク使用をお願いしている マスク等玄関に置いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の側のたつて相談にのりたりしている 面会時には声掛けする様にしている	/	/	/	事業所で行うおやつ作りなどの行事や外出の際には、家族にも案内状を送り参加してもらっている。毎月1回利用者の近況報告の手紙を送るほか、プラン更新時や必要時には電話で様子を伝えたり、ブログでも事業所の活動を紹介したりしている。運営推進会議では、事業所の運営上の事柄や出来事についてその都度報告しているが、参加者は限られており、職員の異動等の情報が全ての家族に伝わっていないため、今後は家族や地域関係者等に、様々な情報が伝わるよう工夫することを期待したい。家族の来訪時には、気がかりなことがあれば気軽に話してもらえよう声かけし、遠方の家族には電話やメールで連絡を取るなど、家族との良好な関係構築に努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時椅子やお茶を出している 出来る限り本人と家族の間には立ち入らず一緒に過ごす時間を大切にしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事やお出かけがある時には声掛けを行っている おやつ作りを企画し一緒に活動出来る機会を作る様にしている	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月に一度は必ず手紙にて近況を伝えている 日頃の様子や行事の予定等を伝えている	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	必要時には連絡を行っている 面会時等に家族の方には積極的に声掛けしている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の研修等の案内を行っている 職員自身が知識を深め分からない所等への相談に対応出来る様に努力している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事他必要な事は報告している 職員の移動や退職に関しては運営推進鍵で報告している	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事やお出かけ運営推進会議等のお知らせをして参加を募っている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入居時だけではなく随時説明を行い相談している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ホーム内研修にて接遇についての研修や指導を行い家族に寄り添える環境づくりに努めている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時に契約書を読み上げ説明して納得して頂いている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については退去理由が契約に基づくものなのかを判断して利用者や家族に納得も行く支援をしている 必要書類も手渡している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項説明書に記載してある 説明して同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	会議に地域の方をお呼びして交流を深めて事業所の目的や役割等を説明して理解をして頂いている	/	○	/	普段、外出散歩の際にはこちらから挨拶を交わしている。町内会にも加入し、市民大清掃や盆踊り等地域行事にも積極的に参加して、地域との関わりを深めるようにしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	外出散歩時には積極的に挨拶を交わしている 現在町内会長さんにも運営推進会議の参加を促している	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者を見守ってくれている方は増えていると思っている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	遊びに来られると言うのは無いが近所の方と話す機会があれば必ずお誘いしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近所の方には気軽に声掛けしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	会議等で民生委員さんには行事のお誘いしている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	今年は盆踊りに参加させて頂こうと思っている そこから他の地域資源に繋がらないかなと思っている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くのコンビニやパン屋のカフェ等に頻繁に行っているし顔も大分覚えてもらっている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回案内等出しているが中々難しい所もあるが会議数日前に電話で参加をお願いしている	x	/	△	家族や地域住民の参加がなく苦慮しているため、継続した参加の働きかけや議題を工夫するなど検討して欲しい。運営推進会議では活動状況のほか、評価の取組み内容を報告しているが、参加者全員に理解が得られていないため、報告内容の充実に努めることが望まれる。会議で出された意見や提案等を日々の取組みに活かすよう検討しているが、結果報告までには至っておらず、今後の積極的な取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	二年前の外部評価の結果や目標達成計画の報告している	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	実際提案があり職員・上司と相談して取り組みに生かせないか実行している	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	地域の方が参加しやすい様に日曜日に開催してみたりおやつ作りに合わせて開催した	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録は一年分エントランスに置いている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念はリビングに提示しておりユニット会議で読み上げている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	運営推進会議で事業所理念を議題にして話合った	x	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修も受けられるような制度があり個々の職員から申し出があれば受けられるようになっている職員にあった研修を選んでいる事もある				ホーム長が代表代行の役割を担っており、職員それぞれに気軽に話しかけて悩みを聞いたり相談に乗るなどストレス軽減に努めており、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎日の業務の中で職員と話し合いや指導してスキルアップにつなげている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の勤務評価を実地して評価が高い職員には賞与等に反映させている 長年勤務している職員には功労金が出る退職金が制度福利厚生に力を入れている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域包括の事業者連絡会 研修等に参加して同業者との交流に努めている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	個々の職員と気軽に話したり悩みを聞いたりしている	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体拘束適正化委員会の設置と共に定期的に開催している 院内研修も行っている				不適切なケアを発見した場合、職員間で注意し合える環境になっているほか、利用者の普段とは違う様子が見受けられた場合は職員が交替するなど、職員は対応方法や手順等について理解・共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ユニット会議や休憩中等時間を見つけて話し合うようにしている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修等で話し合い対応方法は理解している 職員間で見つけた場合は気軽に注意出来る様な雰囲気作りをしている				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	業務の中で職員の言動に注意している ストレスを抱えてそうな職員には声掛けして話を聞いている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束適正化委員会のなかで話し合って理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3か月に1回開催して話し合える場がある 業務の中で拘束にあたるか検討している				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族の方は比較的簡単に拘束して下さいと言われる時があるのでその都度丁寧に説明している				

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	院内研修や運営推進会議等で研修している	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	制度利用の相談があれば情報提供する 家族の現状を把握する様になっている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。			/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	見やすい場所にマニュアルを置いている時々話し合っている	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修等で職員は身に付けている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットも記入するようにしている 事故報告は再発防止の為に職員間で検討している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	入居時に起こりうるリスクについては十分話し合い対策を講じている 毎日の申し送りで気付いた事については情報を速有している	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルがあり職員は内容を十分に理解している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	市町村に報告しなければいけない様な苦情はない 苦情対応はマニュアルに沿って対応している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	まず苦情をしっかり聞き対策案を検討して速やかに対応している経過報告も行い話し合いながら納得してもらうようにしている」	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議には利用者も参加している	/	/	○	利用者からの意見や要望は、運営推進会議のほか、日常の関わりの中で話しやすい雰囲気を作り個別に話を聞いている。家族からの要望等は電話や来訪時の積極的な声をかけて把握するようにしている。管理者は、ユニット会議や個別面談で職員からの意見や要望を聞き取り、運営に活かすようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	重要事項説明書に記載してある 説明して同意を得ている	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談の内容により必要な所を紹介している	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者とは月2回話し合える機会が有る 要望等は会議の場で伝えている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議等で積極的に意見や提案が出ている 会議の内容は会社に送っている	/	/	○	

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価している				運営推進会議では評価結果と目標達成計画を報告しているが、会議に出席していない家族には報告できていない。今後は不参加の家族を含め、会議参加者等に目標達成に向けての取組みについてモニターしてもらおうまでの理解が得られるよう、家族等への働きかけなど今後の取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価する事で明らかになっている現状や課題が次の目標になっている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	地域・家族の評価は特に参考になり目標達成に向けて事業所全体で取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて報告している 今後についても話し合っている	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ユニット会議にて成果の確認をしている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアル作成してある 消防訓練時消防署の方のアドバイスを受けたり職員同士で訓練している				運営推進会議で話し合い、今後は防災士や消防団の方を招いて防災訓練を行う予定となっているが、近隣の他事業所とも連携を図るなど、協力支援体制の構築に努めて欲しい。事業所の防災計画や災害時の対応について家族に周知できておらず、家族からの理解が得られていないため、今後は家族への積極的な参加・協力を呼びかけるほか、訓練内容の報告をするなど、家族等が安心してもらえる取組みが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練は年2回1回は夜間対応で実施している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備の点検はセコムと契約しており定期的に行っている 備蓄食料は訓練の際に点検している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	会議で話し合いは出来ている 地域の防災士の方を招いて防災訓練検討している	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時の連絡網には地域の方の名前が入っている 避難場所は利用者と一緒に歩いて居る				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域包括主催の研修等に参加している 運営推進会議で情報発信している				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の高齢者には声掛している 近所の見学者を優遇して相談にもものる様になっている		×	△	地域の高齢者に声かけしたり、事業所見学者からの相談に応じたりしているが、積極的に対応しているとは言えないため、今後は事業所の相談支援についてPRするなど、積極的な取組みに期待したい。市民大清掃や夏祭りなど、地域行事には参加しているが、地域関係機関と協働のイベント等の実施には至っていないため、今後は市や地域包括支援センター等、他の事業所などとも連携して地域活動を行うなど、地域のケア拠点としての取組みを期待したい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	運営推進会議等で行事の参加を募っている 地域の要請があればいつでも事業所を解放するつもりだ				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現段階ではないが要請があれば応じる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市民大清掃や夏祭りに参加している			△	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年8月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870103862
事業所名	すみれの里
(ユニット名)	しばもち
記入者(管理者)	
氏名	花山朋美
自己評価作成日	令和元年 6 月 30 日

<p>【事業所理念】 私達は利用者の方々のその人らしい生活を大切にし穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送れる事が出来る様サポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 1) 介護記録の意義を理解し利用者のより良い生活やスタッフの意見交換に役立つ様にする 介護記録の意義を職員全員理解したとは思えない所がある 記録に日々の記載等が少ない 2) 緊急時の安全な避難について 避難経路を入口に大きく貼り出した 利用者と一緒に歩いてみた 3) 日常的な外出や近場でもお出かけが出来る様に職員は努めているが家族から十分な協力が得られて無いのが現状 外出の企画をたてて家族に伝えたが参加は難しい 家族も参加したいと思う企画も必要</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は交通量の多い郊外にあり、周辺には民家が少ないため日常的な地域交流は困難であるが、町内会に入り清掃等地域行事にも参加するなど、地域との交流を深めようとする姿勢が伺える。常勤看護師の配置や協力医とも24時間医療連携を取り、看取りにも積極的に取り組んでおり、利用者一人ひとりが安心した生活が送れるよう努めている。職員は人間関係も良好で利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、介護サービスの質のさらなる向上を目指している。</p>
--	--	--

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日常生活の中でたくさん話しをし、表情や言葉などから意向を把握出来る様に努めている。又、本人にお聞きする事もある	◎	/	/	日々の生活の中で言葉や表情から、利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	1人1人に合わせ、この方だったらどうしたいだろう？こんな時にはこうして欲しいかな？と、職員間で話し合ったり、考えたりして、本人はどうしたいか？という検討を行い実行している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族との親密度にもよるが、面会時に話をお聞きし、職員間で情報共有を行っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	個人ファイルを作成し、知りえた事は必ず記録に残す様にしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	話しやすい職員が会話の中でさりげなくお聞きし、本人の思いを見落とさない、おいてきぼりにしないように気をつけている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	各個人の性格や、こだわりを把握し、場面場面で対応している又、本人の大切にしてきた事等家族様や本人をよく知る方にお聞きしている	/	/	○	入居時、これまでの暮らしやサービスの利用状況などについて、利用者や家族、介護支援専門員等関係者や関係機関等から情報を得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で、こんな事ができた等把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	こんな時にはこういった感じだった。こういった風に声を掛けると安心したなど、必ず介護記録に残し、情報共有している。口頭でも申し送るが、申し送りノートにも記録し、活用している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	日々の様子を記録に残し把握に努めている。こうしたら良かった！等の情報を共有している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	それぞれ皆さん過ごし方や、一日の流れが違うのはあたりまえで、各個人の過ごし方一日の流れやリズムを観察し、把握している。またいつもと違う事があれば記録に残している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	こうしたいのかな？という思いを利用者視点で検討して	/	/	○	利用者や家族等関係者からの情報をもとに日々関わりながら、ユニット会議等で話し合い、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会議や、日々のショートミーティングで話し合い検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を明らかにし、ユニット会議ショートミーティングで話し合いを行っている。またプラン等にも反映している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思い、意向が中心の計画となっている	/	/	/	利用者や家族の意向をもとにユニット会議で話し合い、意見やアイデアを介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族の意向をもとに情報収集を行い作成している。本人の希望や思いに必要な支援を職員間で考える様になっている	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族に話を聞きその人らしい日々の過ごし方が出来る内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	支えの中心は家族になっている。地域の人の協力体制は盛り込まれていないが、地域の方と触れ合う機会があれば参加したい	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランはいつでも観られる所に置いてある。またケアチェック表にもプランを挟み、チェックを行う際にも観れるようにしている。日々の状態を把握し、気が付いた事を話しあっている	/	/	○	利用者個々の介護計画はケアチェック表に挟んでおり、職員は内容を理解・共有している。ケアチェック表には、ケアの実践状況を○×等記号で記録しており、ユニット会議やショートミーティングで状況を共有して日々の支援につなげている。介護記録には、利用者の日々の様子や支援の具体的な内容が個別に記録されており、職員の気づきやアイデアなどは、介護記録のほか申し送りノートで情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアチェック表を活用し、ユニット会議やショートミーティングで話合っている。良い結果は続けて行くが、あまり良くなかった時には改善案を話し合い、より良い支援ができるように努めている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人介護記録にこまめに記録している。新しく聞いたエピソード等は口頭で話したり、申し送りノートに記入したりして共有している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個人介護記録や申し送りノートを活用し、気づきや工夫、アイデアを共有している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ユニット会議で見直しを行っている	/	/	△	介護計画の見直しは3か月に1回ユニット会議で話し合っているが、新たな課題や具体的支援内容についてのみで、利用者や家族の意向、総合的な支援内容についての検討が不足しているため見直しを期待したい。 ○ 新たな要望や変化のない利用者に関しても、毎月のユニット会議で状況確認している。利用者の状況に変化があった場合は、随時家族や医師等関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。家族や医師、職員の意見は申し送りノートに記載しているが、担当者会議録がないため作成することが望ましい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ユニット会議に現状確認を行っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	例えば退院した時等、状況状態によって変化が見られた時には、その都度見直しを行っている	/	/	△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に一度ユニット会議を行っている。必要がある時にはその場にいる職員で会議を行っている	/	/	○	毎月ユニット会議で利用者の状態を話し合うほか、緊急案件がある場合には、その都度ショートミーティングを開催して話し合っている。参加できなかった職員を含め、ユニット会議録等で確認・共有するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お互いに遠慮なく話せる様に工夫している。職員一人ひとりの意見交換は出来ている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全員参加出来る様に日程を工夫している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	大事な事は口頭で伝えたり、会議の記録などで正確に伝えている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用し、情報共有を行っている。閲覧したらサインをする様にもしている	/	/	◎	申し送りノートを活用して情報伝達するようにしており、確認後にサインして確実に共有するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートへの記入はもちろん、大切な情報は個人記録のファイルにメモ紙を貼ったり、色ペンを使用したりして、特記事項が分かりやすいようにしている。業務連絡については申し送りノートやカレンダーを使用している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	その日の状態により、要望に対応できる日と出来ない日があるが、なるべく希望要望に添える様努力している	/	/	/	日常の衣服を選ぶことや、おやつや飲み物の選択など自己決定する機会を設けている。利用者の好みのお菓子を食べながら、興味のある話題を提供して話を聞き、昔話や軍歌を歌うなどなつかしく、楽しい雰囲気づくりに努めている。利用者はマスコットの存在の飼い猫とのふれあいを楽しみにしており、いきいきとした表情で毎日ふれあっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	おやつや外出先自己決定出来る事は決めて頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	希望を伝えやすい様に信頼関係を築いていく様に心がけている。本人の力に合わせて支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	大好きな相撲を観たいので、それが終わってから食事がしたい、熱いお湯に浸かりたい、もう少しテレビを観てから休みたい等の要望には対応している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員は笑顔で話しかけ、利用者が楽しく過ごせる様に雰囲気作りを行っている。その人に合わせた、レクリエーション等もやっている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	今日はいつもと表情が違うね。険しい顔をしているけど、どうしたんだろう？その人の色々な表情、サインを見逃さず、情報を共有しながら、その人に合った対応を心がけている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	1人ひとりの個性を大切にしながら声掛け等を行っている。自尊心を傷つけないように努めている	/	○	○	人権や尊厳については接遇研修で学んでおり、誇りやプライバシーに配慮した声かけを常に意識して利用者へ接している。トイレ誘導などは耳元で声をかけるなど、さりげなく介助するように心がけている。居室の出入りの際は、必ずノックや声かけをして利用者の承諾を得ようとしているが、不在時に利用者の許可を得ていないこともあるため、常に意識して行動するよう努めることが望まれる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	例えばトイレ誘導の声掛け等、他の人に聞こえない様に話したり、別の場所で声を掛けたりと配慮している。さりげない声掛けを心掛けている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレは危険が無かったら、終わるまで待たず様にし、入浴の際には肌が見えない様にバスタオルで覆ったり、同性介助を行ったりしてプライバシーに配慮している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際には必ずノックし、返答頂か、少し待ってから入室する様にしています。また居室不在時には〇〇さん洗濯物を入れるので部屋に入りますねと、要件を話し承諾を得てから入室する様にしています	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	理解し十分に守っています。家族には入所時個人情報同意書の説明を行い、サインを頂いている。外部からの問い合わせについても一切答えない様に徹底し、厳守している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	様々な作業を一緒に行ったりする事で、困った事等、助言して頂いている。おばあちゃんの知恵袋や、四文字熟語を教えて下さる方もいる	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握し、配席の検討や静かな環境で過ごす時間を作るなど利用者が孤立せず穏やかに過ごせるよう工夫したり、不穏な雰囲気になりそうな時は、職員が仲介してトラブルにならないよう支援したりしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、他の方の衣類や、身なりを整えて下ったり、取れない物を取って下さったりと、そんな姿が見える。利用者同士の交流を大切にし、支え合う事の大切さを十分に理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の相性、関係性を理解した上で状況に応じた対応を心掛けている。孤立する人が出ない様に、仲の悪い方は席を離す等の対応を行っている。また、職員が声を掛けても応じられない時には利用者の力を借りて声を掛けてもらう時もある	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こった時には直ぐに間に入り、それぞれの言い分を個別にお聞きし、解消に努めている。皆が不安にならない様、周囲の利用者にも気を配っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時に家族にお聞きし、情報を集めている。また面会時の会話の中からも把握する様に努めている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握している情報は利用者によって違うが、把握に努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	行き先があまりに遠かったりと、希望に添えない場合もあるが、行きたい場所があれば出来るだけ出かけられるように支援している	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	何時でも来て頂ける様に窓口を広く設けている。また来所時にはゆっくり過ごして頂ける様に、椅子やお茶等お出ししている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	今すぐに行きましょう！という事は出来ないが、出かけた所は無いですか？とお聞きし、希望に沿って出かけていたりしている。個別に行きたい所への対応も行っている。遠くに行けない時には、玄関で花をみたり、近所を散歩している	○	○	○	家族の協力を得て外出に出かけたり、少人数ずつで焼肉店やケーキ屋さんに出かけたり、買い物に行ったりするなど、できる限り利用者の希望に沿って外出できるようにしている。重度の利用者を含め、近所に散歩に出かけ、玄関先に出て花を見ながら外気浴をするなど季節感を肌で感じてもらえるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方やボランティアの協力を得ての大きかりな外出等は行えていが機会があればお願いしたい 運営推進会議でお話している	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	利用者の負担にならないように配慮しながら取り組んでいる	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族に協力してもらい、お墓まいりなどの外出や外食、病院受診に出掛けている利用者はいいが、地域の方の協力を得ての外出はない。普段行けない場所へは希望をお聞きし、可能であれば出掛けられるよう支援している	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は認知症について、よく理解しており、一人ひとりに合わせた介護、支援が行えている。また研修会等を定期的に行い学ぶ機会を得ている	/	/	/	毎日の着替えや入浴での洗身など、職員は利用者のできることを見極め、できることは極力手や口を出さず、じっくりと見守るなどゆったりとした姿勢で支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者一人ひとりに合わせ、無理のないケアを行っている。身体機能が維持出来る様日常生活の中でのリハビリに取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	つつい手や口を出してしまうが、見守りを重視し、自分で出来る事は自分でして頂いている。手伝いが必要な時には一緒にしている	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の生活歴や能力、有する力を把握し、出番や役割に繋げている	/	/	/	洗濯物たたみやお盆ふき、花の水やりや裁縫など利用者一人ひとりに合った役割や出番、楽しみごとを把握し、それぞれ得意分野で力を発揮してもらい、喜びや張りのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	針仕事得意な方には針仕事の依頼を、塗り絵が得意な方に塗り絵を、出来た作品等は壁に飾ったり、一人ひとりに合わせて楽しみを把握し、無理のないように発揮できる機会を作っている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	外食 散歩等出掛けている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	日々の生活の中で利用者の好みは把握できている。一緒に買い物に行き好みのものを購入して頂く				整容の乱れや衣服の汚れがある時は、他の利用者等に気づかれないよう居室に誘導して着替えてもらうなど、さりげない支援に努めている。重度の利用者を含め、好みの衣服を着てもらうなどその人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	どんな髪型にしたいか？など聞きながらカットしてもらったり、どんな服装が好きか、自分で選んで頂いたり、言えない方は家族に聞く等してその人らしい身だしなみ、おしゃれを支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族に、どんな服装が好きだったか聞いたり、実際に来ておられた服を持って来てもらったりしている。こんな風な服装が好きかな？一緒に考え本人の気持ちに添った支援を行っている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事や季節に合わせその人らしい服装が楽しめる様に支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れや、乱れ等気が付いた時にはさりげなく耳元で伝え、着替え等して頂いている。食べこぼしについても、さりげなく拭く様に心がけている	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	カットについては一所に決めず、いろんな出張カットやさんに頼んでみる。本人の好みのカット屋さんを聞いてくれる本人の望む店があればいつでも行ける様な体制になっている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てる様に支援している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	あれが食べたい、これが食べたいといった願いや希望を大切に、食べる事の楽しみプロセスを十分に理解している				利用者には献立の希望を聞いており、食材はネットスーパーで注文している。ホットプレートでの簡単な調理を職員と一緒にしたり、お盆ふき、テーブル拭きなどできることを手伝ってもらったりしている。献立づくりの際には苦手なものやアレルギーを考慮し、季節感のある旬の食材を提供するようにしている。茶碗や湯飲み、箸等は自宅から使い慣れたものを持参してもらい使用している。職員も利用者と同じテーブルを囲んで一緒に食事しながら見守りや介助を行っており、利用者と職員が会話しながら楽しそうに食事していた。重度の利用者を含め、献立の説明をし、調理の匂いを感じてもらうなど、食事を待ち遠しく感じてもらうよう配慮している。栄養士が不在のためアドバイスは受けていないが、献立の栄養バランスや調理方法については、職員間で定期的に話し合い偏りのないようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食材はネットスーパーに注文しているので直接手に取り選ぶ事は出来ないが、献立など、食べたいメニューは無いかなどお聞きしている。ホットプレートで焼きそばやお好み焼きと一緒に焼く事もあります			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	お盆を拭いて頂くなど無理のない程度の手伝いをして頂いています				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーの有無はもちろん好きな物、苦手な物の把握は出ています。メインの食材が苦手な物の時には違うものを個別でお出ししています				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	旬の食材を取り入れ、彩りにも気を配っている。またリクエストのあったメニューを取り入れている。最近では希望のあった、とうもろこしを茹でて食べました。昔なつかしいはったいご等もお出しする事もあります。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	体調の悪い方にはお粥にしたり、別メニューで対応しています。またミキサー食や、キザミ食であっても、彩りや盛り付けを工夫しています。歯ぐきで潰せる柔らかさの物はそのままお出ししたりと食べる楽しみを工夫しています。食器はなるべく陶器の物を使用しています				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗、湯呑は家で使用していたもの、使い慣れたものを使用してもらっています			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食べこぼしについては、さりげなく片付けをしたり、食べ方に関してもまんべんなく食べられる様に声を掛けている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	今日はこんなものを作っているんですよ。いい匂いがありますね。など声を掛けている。また本人の好きなものであれば、今日は○○さんの好きなメニューですよ。楽しみですよ等声を掛けている	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	各個人に合わせて対応している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	栄養補助食品を利用したり、形態、トロミの具合等工夫し対応している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士はいないが、献立にかぶりがないように考えている。食材発注の際、調理方法などについても話し合いを行っている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材については消費期限、賞味期限の把握している。調理器具にかんしては使用する前には一度必ず洗ってから使うようにしている。まな板などは毎日消毒を行っている				

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	十分に理解している				週に1回、歯科衛生士による口腔ケアと指導を受けており、利用者一人ひとりの口腔内の健康状態について把握できている。毎食後利用者個々の口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保持できるよう支援している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握できている。また異状があれば直ぐに報告、相談を行っている			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士より指導して頂き、ケアの仕方を職員間で統一している					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来ない所は手伝ったり、声をかけたり、十分な手入れが行えるように支援している					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後必ず口腔ケア(歯磨き)を行い清潔を保っている。出来ない方は職員が行っている			○		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	どこかおかしな所があれば直ぐに報告、対応している					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	安易にオムツを使用しない様になっているが、使用量は増える一方である。使用する際には本当に必要かどうか?の話し合いを行っている				トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄のサインを見逃さないように誘導するなどして支援している。おむつやパッド等排泄用品の使用は、必要性や適正性を検討し、状況に応じた支援を行っている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	よく理解している					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を使用しパターンの把握に努めている					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	現状についてしっかりと把握し、適切性については見直しを行い、必要のないパッド等の使用は控える等、その時その時の利用者の状態にあった支援を行っている			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ユニット会議や日々の業務のなかで改善策を話し合っている					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個人個人のパターンに合わせて誘導出来ている					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	使用に関しては家族と相談している。種類は希望が無ければ会社指定の物になるが、使い慣れているものがあればそれを使用していただいている					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	1人、ひとりの状態をしっかりと把握し使い分けしている					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分を十分に取って頂いたり、軽い運動を行って頂いたり色々な面からアプローチし、なるべく自然排便を促せる様に気を配っている					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	職員の都合で決めてしまっている所もあるが、ある程度の希望はお聞きしている。出来ない時もある。長さや温度は個人の好みに添えるよう、無理のない様に入浴して頂いている			◎	○	週2~3回入浴しているが、要望があれば臨機応変に対応している。浴室を温めて寒くないように配慮し、入浴を嫌がる場合には、時間や曜日を変更して声かけするなど工夫している。重度の利用者も特殊浴槽で入浴できるようにしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	声掛けを行いながら、ゆっくりと入浴出来る様に見守りを行っている					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は手を出さず、自分でして頂いている。声掛けをこまめに行い、安心して入浴出来る様に支援している					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	無理に行動せず、時間をおいて声を掛けたり、目を改める等して対応している。無理はせず、気持ちよく入浴して頂けるように気を配っている					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルをチェックを行い健康状態の確認を行っている。また何日かの様子も視野に入れ、無理のない様に入浴して頂いている。入浴後の様子も確認している					

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や夜勤者からの情報を共有し把握に努めている	/	/	/	昼夜逆転の利用者もいるがその状態を理解し、日中休みたい時には無理に起こさずベッドで休んでもらい、眠れない時は職員が利用者と温かい飲み物を飲みながら話すなど工夫しており、安易に薬剤に頼らないよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間いつも眠っているから、夜眠れないのかな？等原因を皆で探っている。その人のリズムを取り戻せる様に工夫している	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	使用に関しては、安易に使用せず、使用する時には必ず家族に相談し、日常の過ごし方をふまえた上で医師に相談している。様子をしっかりと見て伝え、処方や薬の量を調節している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休みたい時にはいつでも休める様にしている。またいつもと様子がおかしいな？と思う時には声掛けを行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。相手の都合にも配慮している	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話出来ない決めつけず、例えば受話器を耳に当ててもらったりなど試してみている。レクリエーションで絵葉書を塗っているのを見てみませんか？と声を掛けてみている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば電話出来るように配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返事を書いてみませんか？声を掛けています。絵葉書に一言添えて返信される方もいる。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	手紙のやりとりをされている家族もおられます。電話はかかって来る方もいらっしゃいますが、殆どの方にはかかってこないのが現状です。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	充分に理解している。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望があれば一緒に買い物に出掛けている。定期的に買い物に出かけ、お金を使う機会を作っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	安心して買い物出来る様、事前に店の情報を下調べしています	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現金を所持している方もいらっしゃるが、基本的に小口現金として預かり、必要時にそこから支払を行っている。買い物の際、自分で支払いたい方にはその場で現金をお渡しし、支払いをしてもらっている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	紛失のリスクも考えた上で、納得できる方法を話し合っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	個人小口現金出納帳にて管理を行っている。購入した毎にノートに記入し、お金の管理を行っている。一か月ごとに、購入したレシートや領収書を家族様にお渡ししている。現金をお預かりした際にも、預かり証をお渡ししている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来るだけ希望に添える様に取り組んでいる	◎	/	◎	自宅までのドライブや買い物等、要望があれば応じて柔軟に対応している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄關まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄關や建物周囲の工夫をしている。	○	近所は商業施設が多い為、地域の人は少ないが、声を掛けたり、玄關に花を植えたり、気軽に出入りして頂けるように工夫している	○	○	○	玄關アプローチには季節の花や野菜のプランターを置くなど、親しみやすく気軽に入りやすい雰囲気づくりに努めている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄關、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングはそんなに広くなく、いつでも人の気配が感じられる様になっている。鉢植えの植物、季節の花などを飾ったり、利用者が作った作品等を飾っている	○	○	○	廊下の壁には、いちご狩りや外食時の写真が掲示されており、利用者が楽しい時間を過ごしている様子がよくわかり、家庭的な雰囲気を感じられる。毎日の掃除が行き届き、清潔感があり、不快な音や光、臭いなども感じないよう配慮している。リビングにはひまわりが生けられ、壁には利用者と一緒に作成した七夕飾りやうちわが飾り付けられており、季節感を味わうことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	テレビの音や、職員の話声(声のトーン)に気を配っている。まぶしくない様にカーテンで遮光したりしている。換気もこまめに行っている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の物、お雛さまや七夕飾り等を飾ったり、電線にとまる鳥を観たり、外の風景を楽しんだり、心地よく過ごせる工夫を行っている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲の良い方同士での席の配置や、ソファやテーブル席、車椅子の配置等、過ごし方に合わせて移動したり、過ごしたり出来る様に工夫している	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	リビングの直ぐ傍に、トイレ、浴室があるが、使用時にはカーテンを引いたり、戸を閉めたりしてプライバシーに配慮している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所時、家族と相談しながら、本人の使い慣れた馴染みの有る物を持ってきて頂いている。使いやすい様にレイアウトして頂いている	◎	/	/	居室には、電動ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられているが、寝具やテーブルやソファ、ぬいぐるみなどは個人のもを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや居室には、必要な方には目印を付け、工夫している	/	/	○	居室のドアは番号で表示しているが、分かりにくい利用者は名前を表示しているほか、トイレにも「便所」「トイレ」など分かりやすく表示するなど、自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	同じような物には目印を付け本人の物とわかる様に工夫している	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	馴染みの物は目が届く範囲に置いてある。裁縫道具等使われる時には職員と一緒に使っている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄關に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニット出入口には夜間しか鍵をかけていない。職員は鍵をかける事によっておこる弊害を十分に理解している	◎	◎	◎	職員全員が玄關等に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄關等出入口は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全対策などを十分に説明し、理解して頂いている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄關に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄關の鍵はかかっていない。ユニットの入り口に関しても日中の鍵は使用しておらず、入り口近くには必ず職員が在中し、鍵をかけない工夫を行っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人ファイル、フェイスシート、介護記録などで把握している。追加事項あればその都度記録記入を行っている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	表情や行動以外にも気が付いた事、気になる事を記録に残し、報告相談を行っている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問に来て頂いている、かかりつけ医、看護師とは気軽に相談できる関係を築いている。何かおかしい!と思ったら、直ぐに相談し、現状から予測されるリスクなどアドバイスを頂いている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望に添えない事もあるが、今まで行っていた医療機関を受診で切る様に支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、利用者の意向に沿って病院受診を行っている。利用者が希望する病院への受診もやっている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	家族が希望する形での情報伝達を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーを必ずお渡しし、入院時に必要な情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	状態を含め退院できる見込みをこまめに聞いている。また退院した際の留意点などの相談や情報交換を行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	緊急時以外は、往診に来てくれる病院への入院なので、いつもの病院、という安心感がある。信頼関係は出来ている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	往診時に日頃の様子をバイタルを含め、お伝えしている。変化があった時には必ず連絡を入れ、相談を行っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも連絡が出来る体制になっています				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	いつもと様子が違うな、表情がおかしい。様子がおかしいと感じた時には必ず介護記録に残し、相談報告、情報共有を行い、早期発見につなげています				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	各個人どんな薬を飲んでいるかのファイルがあり、職員は十分に理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝、昼、夕、眠前と薬の袋に色分けしたラインを引いている。服薬時には袋の名前と日付、一つの薬かを読み上げ誤薬が無い様に気をつけている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬が追加された時にはもちろん、いつもと違った様子があれば記録に残し、口頭でも様子を伝え確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	日常的に本人を観察し、状態などを記録している。変化ある時には相談し、情報を提供している				

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所の際終末期の有り方についてお話し、その時にはどうするかお聞きしている。また重度化、変化があった時に、その都度家族の思いを聞き方針の確認を行っている	/	/	/	重度化や終末期等のあり方は、利用者や家族の意向に沿い職員やかかりつけ医、協力医療機関等関係者で話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	状態の変化、重度化になった時、その都度話し合いを行い、思いをお聞きして、方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者、家族の思いを踏まえ、職員の話聞き、現在出来る事、出来ない事の見極めを行っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	求められる事に対しての出来る事、出来ない事をお話し、なぜ出来ないのか？の説明を十分に説明し、理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、医療チームとの連絡を取りながら、利用者がより良く暮らせる様に支援している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	その都度、その日、その日の様子を伝えたり、お話をお聞きする中で、思いを汲み取れるように努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	対応マニュアルがあり、いつでも観られるようになっている。季節ごと、流行前には施設内研修も行い、対応策等見直しを行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルに沿って対応している。流行前にはユニットにて対応のおさらいをしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	医療機関の情報等取り入れている。また子供のいる職員などから情報を入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行時には敏感に対応し、情報収集に努め対応している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員には手洗い、うがい、マスクを徹底している。手の洗い方についてはポスターを掲示し、それに沿って手洗いを行っている。来訪者にはマスクと消毒液を用意しているが、差し支えなければ手洗いも行ってもらっている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族が抱えている様々な思いや、感情に寄り添い共感できる姿勢、想いを大切にしながら関わっている	/	/	/	事業所で行うおやつ作りなどの行事や外出の際には、家族にも案内状を送り参加してもらっている。毎月1回利用者の近況報告の手紙を送るほか、プラン更新時や必要時には電話で様子を伝えたり、ブログでも事業所の活動を紹介したりしている。運営推進会議では、事業所の運営上の事柄や出来事についてその都度報告しているが、参加者は限られており、職員の異動等の情報が全ての家族に伝わっていないため、今後は家族や地域関係者等に、様々な情報が伝わるよう工夫することを期待したい。家族の来訪時には、気がかりなことがあれば気軽に話してもらえよう声かけし、遠方の家族には電話やメールで連絡を取るなど、家族との良好な関係構築に努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時にはお茶や椅子をお出ししたりしている。家族でゆっくりと過ごせる様に、居室への立ち入りはなるべく控えている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	色んな行事の度に家族に声掛けしている 外出等も同行のお願いしている	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月に一度近況報告の手紙を送っている。またプラン更新の時には電話をし、様子を伝えている。それ以外の必要時にも電話で連絡を行っている	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	必要時にはこまめに連絡を行っている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	職員が分かる範囲で支援している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事などのお知らせは出ている 職員の退職、移動の報告は運営推進会議で報告している	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事は全家族への連絡を行っている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者の現状から、起こりうるリスクの説明を行っている。また危ないからと言って何もかも制止するのではなく、安全に出来る様な対応策を話しあい、対応している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽に話しかけて頂ける様に、来訪時には声を掛けている。家族によって差はある。遠方の方については、手紙や電話、メールにて連絡を取っている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時、解約時に時間をかけて説明を行っている。内容変更の際には、口頭、書面にての説明を行っている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退所時には具体的に話や説明を行っている。サマリーや、情報提供など、必要な書類はすみやかに提出を行っている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には家族一人ひとりに内訳の書面を送り、理由など説明を行い同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	機会があれば説明を行っています	/	○	/	普段、外出散歩の際にはこちらから挨拶を交わしている。町内会にも加入し、市民大清掃や盆踊り等地域行事にも積極的に参加して、地域との関わりを深めるようにしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会への参加はしています。少しずつですが運営会議に町内会長さんが参加して下さるようになりました。地域行事への参加は、市民大清掃と、盆踊りへの参加が決まっています	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	見守って下さる、地域の方は増えて来たと思う	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	遊びに来られる方はいないが、見学希望の方は気軽に立ち寄られている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	見かけたら挨拶をするようにしています。気軽に立ち寄って頂く様に常日頃から声掛けしています	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	行事等の連絡を行っている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源の把握はまだですが、利用者の力や安全で豊かな暮らしができるように支援している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くのコンビニやパン屋さんに良く行き、挨拶を行っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方の参加は有るが、家族の参加率が少ない。毎回声を掛ける様にしているが入居が長期に渡る家族の参加は難しい	x	/	△	家族や地域住民の参加がなく苦慮しているため、継続した参加の働きかけや議題を工夫するなど検討して欲しい。運営推進会議では活動状況のほか、評価の取組み内容を報告しているが、参加者全員に理解が得られていないため、報告内容の充実に努めることが望まれる。会議で出された意見や提案等を日々の取組みに活かすよう検討しているが、結果報告までには至っておらず、今後の積極的な取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の結果が出た時点で、運営会議にて報告を行っている	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出た様々な意見や、提案を、どんな風に取り組んだか、取り組んだ事の結果報告を次の運営会議で行っている	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加しやすい日程を工夫している	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関の閲覧コーナーにファイルを置き誰でも観られる様にしています	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は玄関口、リビングに掲示している。日々の業務やユニット会議等で理念について話し合う機会を設けている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入所時、見学の時等に詳しくお話ししている	x	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修の案内にて、今これが必要なのではないか？また案内を頼ってもらい興味があるものに参加してもらっている。一人にかたよらないよう職員全員行ってもらっている	/	/	/	ホーム長が代表代行の役割を担っており、職員それぞれに気軽に話しかけて悩みを聞いたり相談に乗るなどストレス軽減に努めており、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎日業務の中で気が付いた事など話し、指導している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に2回の、勤務評価を行っていて、勤務評価に応じ、給与、賞与に反映されている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同じグループ内での管理者会議は月に2回行っている。それ以外での交流としては外部研修等への参加を促している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	個々の職員に話しかけ、悩みや相談があれば話を聞いている。また話にくい内容であれば、上司に相談し、声を掛けてもらうようにしている	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修や、勉強会を行い十分に理解している。日々の介護の中で、これって不適切なケアになるのかな？等振り返り検討している	/	/	/	不適切なケアを発見した場合、職員間で注意し合える環境になっているほか、利用者の普段とは違う様子が見受けられた場合は職員が交替するなど、職員は対応方法や手順等について理解・共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日のショートミーティングやユニット会議等でふり帰り話しあう機会を作っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	それって違うんじゃない？そう誰もが言える雰囲気を作り、お互いに注意が出来る環境を作っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	事故は職員のストレスや注意力散漫によることも多い事を話し、しんどそうだったり、当たりがきついなと感じた時には、介助を変わったりしている。無理をしない様に点検している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	十分に理解している。以前は安全ベルトを使用していた方がいらしたが、解放に向けて何度も検討し、使用中止となりました	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	スピーチロックも拘束にあたるよね。と、この声かけは大丈夫か？物理的な拘束や言葉での拘束を含め点検し、話し合う機会を作っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束は行わない！という取組や工夫について話し合いを行っている。また弊害についてもお話ししている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	利用者の中に後見人制度、自立支援を利用されている方がいらっしゃるが、その内容について職員全員が理解しているとは言いがたい。勉強会等で理解を進めていきたい				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	研修等をしているが知識不足なので相談があれば一緒に勉強して行きたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターにはいつも地域運営会議に参加している。必要に応じて連携が取れるようになっている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時や、事故対応マニュアルがあり、いつでも観られる場所に置いてある。また日常的にこんな時には対応をどうするか？等、話し合う機会を設けている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	職員によっての対応力に差があるため、定期的に初期対応の訓練を行い差を埋めている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故が起こった際には直ぐに事故報告書を書き、今後の対応についても話し合いを行っている。ヒヤリハットも活用し、再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	1人ひとりの状態を把握し、起こりうる事故について検討している。リスクの高い方についてもその都度対策を検討し事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対策マニュアルがあり、職員は内容を十分に理解している。またマニュアルはいつでも観られる所に置いてある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	充分に話をお聞きし、マニュアルにそって対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	解決策、対応を対象者に伝えし、意見、要望をお聞きしている。経過報告も行い、納得、理解を得ながら話し合いを行っている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者と話す機会を沢山作り、話しやすい声を掛けてくれやすい雰囲気を作っている。意見や要望を個別に聞く機会も設けている			○	利用者からの意見や要望は、運営推進会議のほか、日常の関わりの中で話しやすい雰囲気を作り個別に話を聞いている。家族からの要望等は電話や来訪時の積極的な声をかけて把握するようにしている。管理者は、ユニット会議や個別面談で職員からの意見や要望を聞き取り、運営に活かすようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族と話す機会を多く作り要望などお聞きしている。苦情相談窓口は重要事項説明書に記載しており、入居の際には必ず説明を行っている	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談事に合わせて必要な機関の紹介も行っている。家族に代わっての相談も行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者には月に2回話し合える機会がある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個々に話を聞いたり、ユニット会議で話し合ったりしている。職員は提案、意見等、積極的に話してくれている			○	

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行っている				運営推進会議では評価結果と目標達成計画を報告しているが、会議に出席していない家族には報告できていない。今後は不参加の家族を含め、会議参加者等に目標達成に向けての取組みについてモニターしてもらったまでの理解が得られるよう、家族等への働きかけなど今後の取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価にて明らかになった問題や現状、課題が次の目標となり、介改善や、学習の機会となっている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の研修に反映させたり、目標を掲げたりして達成出来る様取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	地域運営推進会議にて報告を行っている	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	地域運営推進会議で報告を行い、ユニット会議では取組の成果を報告確認している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる場所に置いている				運営推進会議で話し合い、今後は防災士や消防団の方を招いて防災訓練を行う予定となっているが、近隣の他事業所とも連携を図るなど、協力支援体制の構築に努めて欲しい。事業所の防災計画や災害時の対応について家族に周知できておらず、家族からの理解が得られていないため、今後は家族への積極的な参加・協力を呼びかけるほか、訓練内容の報告をするなど、家族等が安心してもらえる取組みが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の消防避難訓練を行っている。日々の生活の中でも、こんな時にこんな事が起こったら?と想定し、どう逃げたいか等話し合っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	セコムとの契約を行っており、定期的に点検を行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の方には、運営会議の時に一緒に参加して頂いている	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時の連絡網には地域の方の連絡先も入っている。また職員は避難場所、避難経路を把握している				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営会議で催しもの開催、報告をおこなっている				地域の高齢者に声かけしたり、事業所見学者からの相談に応じたりしているが、積極的に対応しているとは言えないため、今後は事業所の相談支援についてPRするなど、積極的な取組みに期待したい。市民大清掃や夏祭りなど、地域行事には参加しているが、地域関係機関と協働のイベント等の実施には至っていないため、今後は市や地域包括支援センター等、他の事業所などとも連携して地域活動を行うなど、地域のケア拠点としての取組みを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談に来られた時には支援している		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	解放はしているが、活用される事が無い。いつでも使って頂ける様に解放している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	要望があれば受け入れる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	夜市、市民大清掃など参加させて頂いている。秋祭りにはお神輿、子供獅子舞など毎年来て頂いている			△	